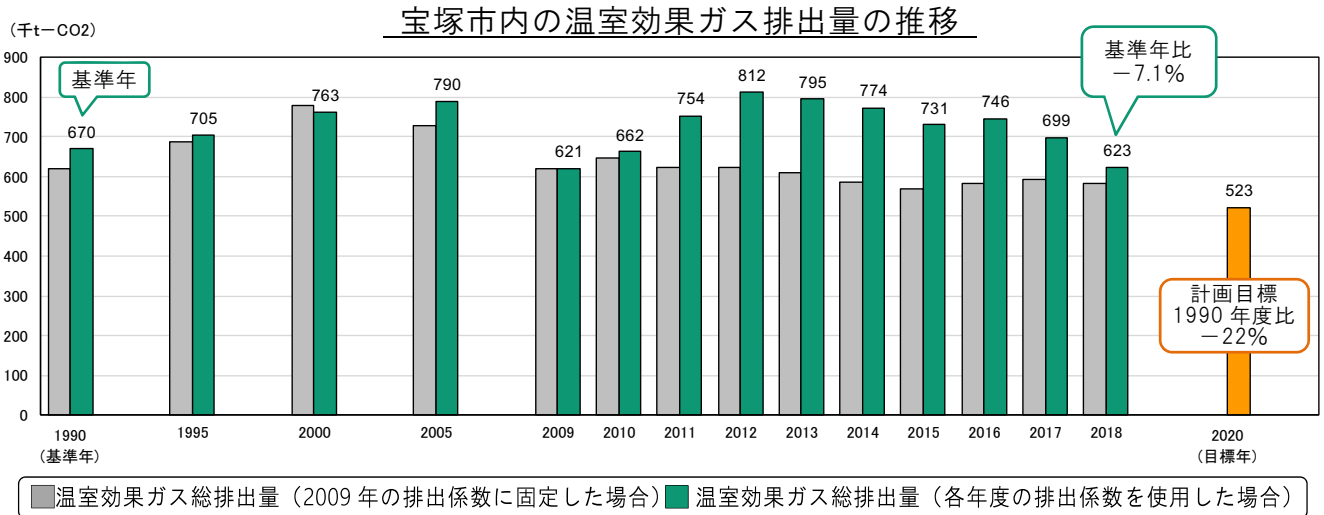


宝塚市内の温室効果ガス排出量について（2018年度速報値※）

※温室効果ガスの排出量を迅速に把握し、実効性の高い施策を実施するため、可能な限り最新の数値を用いて2018年度実績を速報値として公表しています。なお、各種統計データが公表されていない部分は暫定的に2017年度データを用いて算定しています。そのため、確定した統計データに基づいて算定した場合に差異が生じる可能性があります。

1 温室効果ガス排出量の推移

2018年度の温室効果ガス排出量:62万3千トン
(基準年比-7.1%)



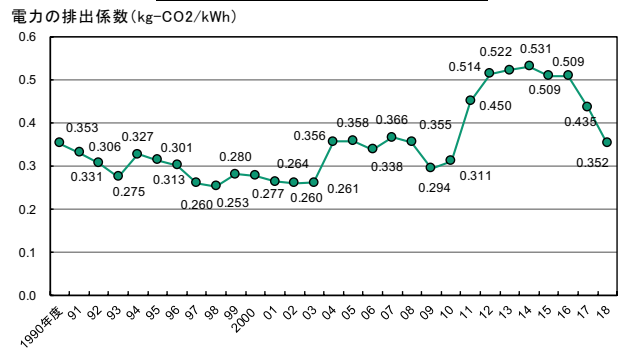
電力の排出係数とは

電力の排出係数とは、各電力事業者が一定の電力を作り出す際にどれだけ二酸化炭素(CO2)を排出したかを表す指標です。火力発電は化石燃料を燃やして発電するため、火力発電の割合が高くなると排出係数は高くなります。

私たちの取り組みとしては排出係数に関わらず、普段の省エネ行動により、電気使用量を削減していくことが大事です。

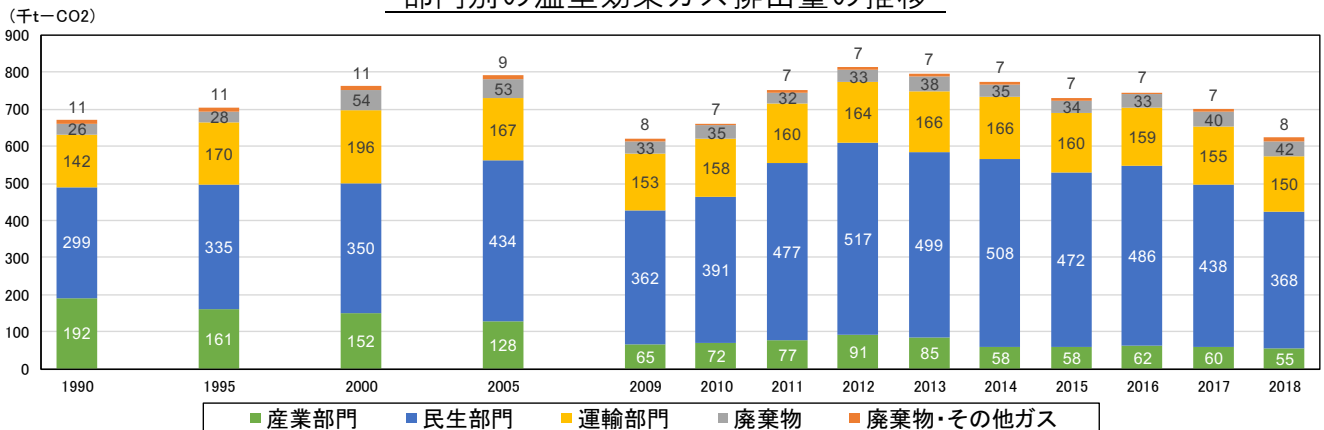


関西電力の排出係数の推移

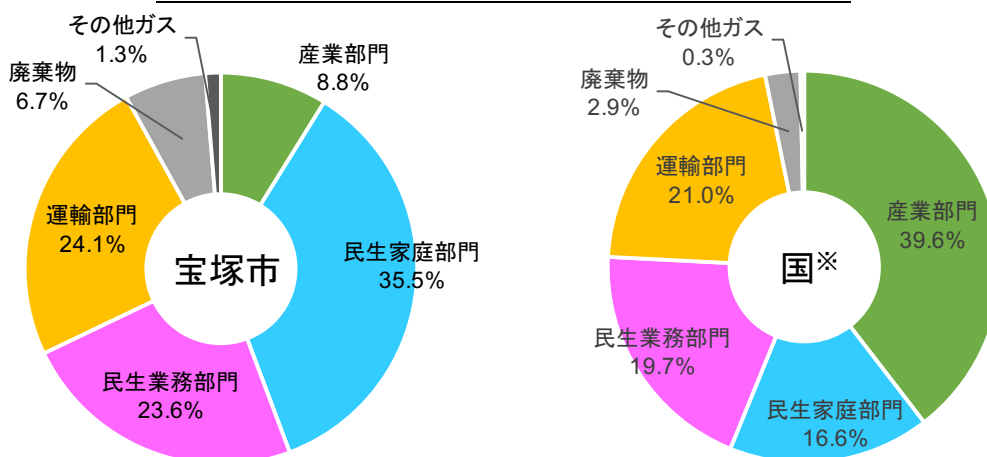


2 部門別の排出量

部門別の温室効果ガス排出量の推移



温室効果ガス排出量の構成割合（2018年度）



※国は2018年度の温室効果ガス排出量(速報値)をもとに算出

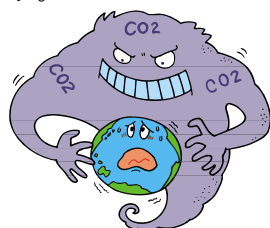
宝塚市の2018年度（速報値）の温室効果ガスの構成割合をみると、民生家庭部門の割合が全体の約40%を占めており、国と比べて高いのが特徴です。

部門別の排出量では基準年（1990年度）と比べると、民生家庭部門で26.3%増加、民生業務部門で17.6%増加、運輸部門で5.6%増加、廃棄物で61.5%増加となっています。

一方、産業部門では基準年から71.4%減少、その他ガスでも27.3%減少しています。

部門別の温室効果ガス排出量

部門	1990年度 (基準年)	2018年度	
		排出量	基準年比
産業部門	192	55	71.4%減少
民生家庭部門	175	221	26.3%増加
民生業務部門	125	147	17.6%増加
運輸部門	142	150	5.6%増加
廃棄物	26	42	61.5%増加
その他ガス	11	8	27.3%減少



主要4部門排出量の増減状況（1990年度を100とした場合の推移）

